

波提梨鬼 はだいりき 速去 しっこ 速去 しっこ 莫得久住 まくとくくじゅう

阿佉那鬼 あぎやなき 波羅尼鬼 はらにき 阿毘羅鬼 あびらき

莫多南鬼 あぎやなき 阿佉尼鬼 あぎやにき 尼佉尸鬼 にぎやしき

沙羅法 さらぎや 沙羅法 さらぎや 沙羅法 さらぎや

南無諸聖僧 なむししんずん 南無呪師 なむしゅうし

南無十方諸佛 なむじほうしつぷ 南無諸菩薩摩訶薩 なむしつぷさいもこさ

南無佛陀耶 なむぶつた 南無達磨耶 なむだま 南無僧伽耶 なむせんぎや

「卻瘟神呪」 ぎやくおんじんしゅう

# 實相寺花園會報

令和二年 五月一日発行  
 發行所 臨濟宗妙心寺派 陽明山 實相寺 實相寺花園會  
 〒761-0450 高松市三谷町 1811番地1  
 TEL087-889-3838  
 編集發行人 山本文匡  
<http://www.jissouji.net>

第133号

「却瘟神呪」は「仏説却温黄神呪經」の中にある「疫病を却ける神呪」です。このお経は平安時代の真言僧、宗叡そつゑいが日本に持ち帰り、江戸時代、洛西で疫病が流行った際には印刷したこの経を竹筒に収めて玄關に掛けさせたと言った記録もあります。現代では何故か禅宗だけで読まれています。通常は三回、又は七回繰り返して読みます。

## 「招かれざる天井裏の珍客達」

昨年の春頃、時々廊下の天井裏に動物が居るような足音や気配を感じたので、一時、市役所の農林水産課から檻を借りて設置しましたが、その時は捕獲できずそのままとなっていました。しかし今年に入って頻繁に物音がするようになった為、市役所から紹介して貰った業者に駆除を依頼し、4月4日に本堂正面横と北側トイレ横の2ヶ所に檻を設置したところ、直ぐにハクビシン2匹、イタチ1匹が捕獲されました。可哀想ですが天井裏に棲みつかれては建物も傷みますし、何より不衛生なので仕方ありません。

今後はしばらく様子を見たあと、屋根裏に動物の進入出来る隙間をふさぐ工事を行う予定です。



右上：4月4日捕獲

ハクビシン (オス?)

左上：4月5日捕獲

ハクビシン (メス?)

右下：4月10日捕獲

イタチ



第4号議案(1)

令和2年度花園會會費收支予算案

自 令和2年4月1日  
至 令和3年3月31日

(単位:円)

項目		前年度予算	本年度予算		
収入	繰越金	302,378	401,871		
	会費	762,000	780,000	花園會會費(130戸)	
	雑収入	0	0	雑収入	
		2	1	受け取り利息	
合計	1,064,380	1,181,872			
支出	負担金	256,800	270,000	本山賦課金等の助成	
		100,000	110,000	教区会費等の助成	
	事業費	運営費	30,000	30,000	事業活動費
			10,000	10,000	女性部会費
			30,000	30,000	会議費
			10,000	10,000	事務通信費
			10,000	15,000	会費徴収手数料
			200,000	200,000	布教教化助成費
	助成費	50,000	0	本山団参加助成費	
		30,000	30,000	花園會會務旅費助成	
	予備費	337,580	476,872		
合計	1,064,380	1,181,872			

【お詫びと訂正】

先日送付しました第39回総会議案書の令和2年度花園會予算案では収入の「繰越金」が337,580円となっていました。正しくは令和元年度決算書の通り401,871円でした。伴って、収入・支出の「合計」金額、及び支出「予備費」も上記の通り訂正すると共に謹んでお詫びいたします。

なお議案の可否を問うハガキをまだ投函されていない方は、5月10日までにご回答の程、宜しくお願い致します。

「お寺の現状について」(3)

世の中全体が大変な今、お寺のことはかり申し上げるのは大変心苦しいのですが、今回のコロナ禍は確実に日本社会の変化を加速させると思います。しかし、お寺はもう必要ないのか？ といえば、決してそうでは無いでしょう。高ストレスな現代社会では心のケアが求められています。仏教は二千年五百年の間、心を探究してきました。むしろ仏教に対する潜在的なニーズは高まっているとさえ感じますが、現時点では葬式法事や観光以外の目的でお寺を訪れる人は少なく、僧侶の対人支援スキルも不十分なのが実状です。勿論、今でも様々な対人支援を行っている僧侶も一部にはいますが、少数

かつ個人的に活動している方が殆どです。将来的には教団がそうした活動や人材育成を支援し、各地のNPO等と組織的に連携出来れば、お寺や僧侶のあり方も随分と変わって来るでしょう。また今後は自宅での介護や看取りが増えると予想されますが、医療や福祉が担えるのは人が生きている間だけです。そこに宗教者が加わることは、支援をされる側だけでなく、支援する側の一助にも成り得ると思います。特に「生老病死」の苦しみは、お釈迦様が出家した動機でもありました。この本来的な問題に取り組んでこそ、お寺や僧侶の存在意義があるのであり、「僧侶になりたい」という人材の発掘にも繋がるのだと考えます。(続く)